

# 第4回 四万十町 地域イノベーター養成講座

ビジュアルレポート

## 実施概要

- 実施名称 第4回四万十町地域イノベーター養成講座「実現に向けてアクションを起こそう」
- 日時 2017年10月22日（日）
- 会場 オートキャンプ場ウエル花夢
- 主催 四万十町役場人材育成推進センター
  
- 実施内容 「地域のために何かしたい」「起業をしてみたいけど、まだ勇気がない」「何をして良いのかわからない」そういった方々を対象に全6回の地域イノベーター養成講座を開催。  
一人一人が自分ごととして、地域課題解決や活性化を目指す「チャレンジする人材」の学びの場。

## プログラム

- 11:00 主催者挨拶
- 11:10 チェックイン・アクション共有
- 12:00 ランチタイム
- 13:00 事業アイデアの検討（リーンキャンバス）
- 14:40 チーム振り返り
- 15:30 チェックアウト

1人ひとりが自分事として、  
地域課題解決や活性化を目指す  
「チャレンジする人材」の学びの場

1

一人ひとりが自分の経験の中から、自分自身のミッション（使命）を見つけ出す

2

“ジブンゴト”で取り組むことができるプロジェクトを自分自身で生み出す

3

ジブンゴトのプロジェクト（マイプロジェクト）に取り組む仲間同士がともに切磋琢磨しながらも支え合う関係を創る

- 1 安心・安全の場をみんなで創ろう
- 2 ありのままの自分を素直に出そう
- 3 仲間・プロジェクトを評価しない
- 4 プロジェクトは変わってOK
- 5 お互いに貢献し合う

オリエンテーション&チェックイン：講座のゴールと今日の意気込みを共有

インプットワーク：講師やゲストからの話題提供&基礎知識の紹介

マイプロジェクトワーク：マイプロジェクトシートを使って対話&発表

アクション設定ワーク：次回までの各自のアクションの設定

まとめ：講座のまとめと次回までの課題の共有

※講師やゲスト、メンターが主役ではなく、参加する皆さん自身が学び合い、支え合うことを重視して進めていきます！

※もちろん必要に応じてインプットや知識は提供しますが、何よりもアクションを重視しましょう！

マイプロ Me編	名前 (ニックネーム、読んでほしい名前、その由来)	作成日: 場所:
似顔絵・写真	みんなが知らない自己紹介	
自分ヒストリー 昔 (～小学校)	人生グラフ: 横軸は年で、縦軸はイキキ度(幸せ度)。人生で輝いていた時、沈んでいた時を見る化しよう!	
(～中学・高校)		
(～専門・大学)		
(～現在)		
今	みんなが知らない自慢・一発芸・得意技	
マイプロジェクトの源泉へ		

## ← me編シート

- ・自分のライフヒストリーや好きだったこと、楽しかったこと、つらかったことなど
- ・自分の人生をグラフにしてみる
- ・普段見せない自己紹介

## project編シート→

- ・自分と紐づいたプロジェクトを書き出す
- ・それは誰にどんな価値を生み出すのか

PROJECT編	
わたしのプロジェクト(マイプロジェクト)を一言で!	
■実践したいプロジェクトの概要	
↑ ↓	
■「やってみたい!」と思った、理由や背景、原体験	■「誰」にどんな価値を生み出しますか?

- ① **Why** : どんな「わたし」が何を夢描いているのか？
- ② **What** : それを実現する、何をするプロジェクトなのか？
- ③ **How** : プロジェクトを進めるため、進捗を管理しよう



① **Why?**

プロジェクト

② **What?**

プロジェクト

プロジェクト

わたしたち



③ **How?**  
進捗管理

ビジョン実現に向けて、学習と軌道修正をくりかえす



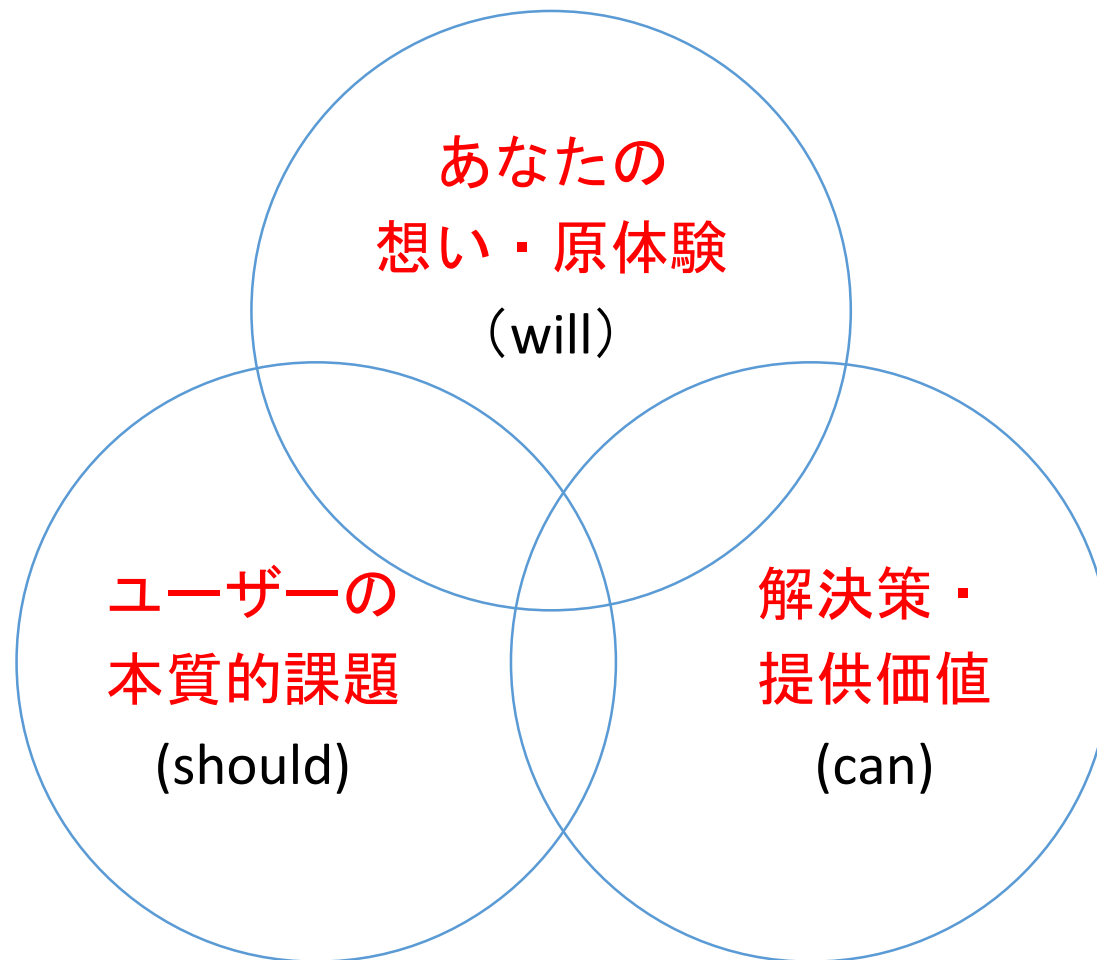
**挑戦を支える“居場所”(セーフスペース)**

- 自分たちとプロジェクトの“つながり”
- Yes, Andできる仲間やコミュニティの存在

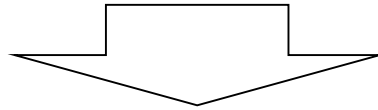
マイプロジェクト =  
自分に基づいた (my)  
「何かを、プロジェクトの形にして (project)  
やってみる」ことから始まる、自分や世の中の変化の物語

出所: ボーンステイン& デイヴィス(2010訳書, p.111) 追加筆修正  
※ 井上英文作成

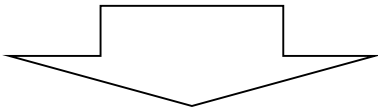




**STEP1: “My Story” → “It’s me ”**



**STEP2: 「共に」 一歩踏み出す**



**STEP3: 仲間として支え合う**

変化歓迎・失敗歓迎・立ち止まり歓迎

プロジェクトの成功より、

一人一人が自分の人生を生きているかどうか？

# チェックイン&アクション共有

高知大学・須藤によるプログラム説明が行われたのち、参加者全員で2ヶ月間のアクションについて共有した。前回の講座から2ヶ月ぶりの開催となり、参加者皆で互いの近況報告やプロジェクトの進捗について報告しあった。



須藤氏によるプログラム説明



チェックインの様子



アクション共有の様子

# 事業アイデアの検討（リーンキャンバス）

各自が持つ事業アイデアを具体化するために「リーンキャンバス」というツールを使用した。まずリーンスタートアップという考え方と、リーンキャンバスについての説明がなされたのち、チームに分かれキャンバスの作成を行った。



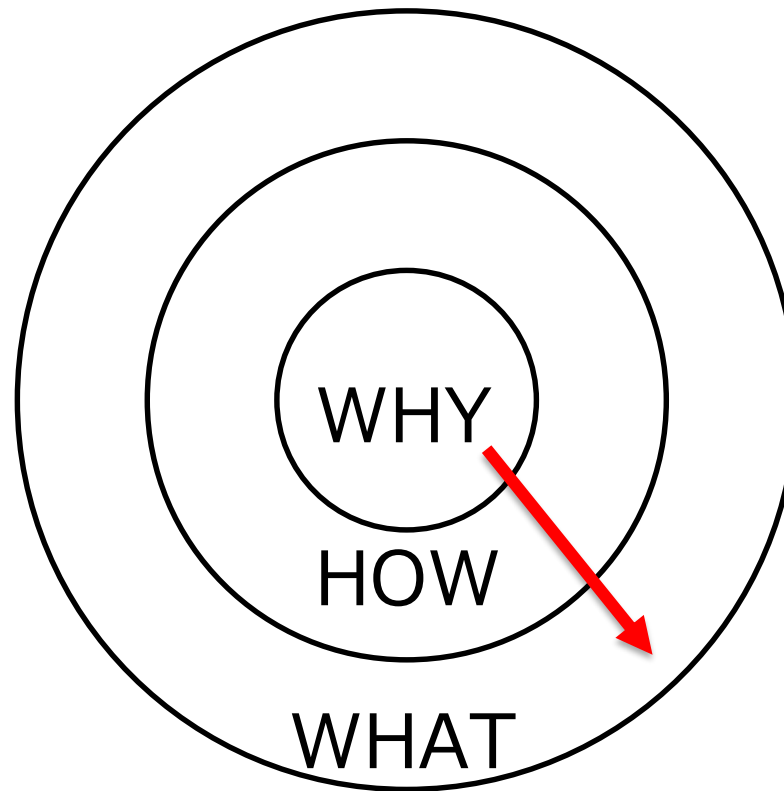
アイデアを検討する様子



## リーンキャンバス (ビジネスモデルキャンバス)

### ■ビジネスモデルを9つの要素で整理し、可視化(描く)するツール

<p><b>②課題：上位3つの課題</b></p> <p>顧客が抱える課題を上位3つは何か。 また、満足はしていないものの、顧客が活用している既存の代替サービスや商品はなにか。</p>	<p><b>④ソリューション：上位3つの機能</b></p> <p>それぞれの顧客に対してあなたの実行施策の上位3つの機能を記入。 それぞれの顧客が抱える課題に対して「実行可能な」もの。</p> <p><b>⑧主要目標：計測する主要活動</b></p> <p>あなたの活動が成功するために必要な数字は何か。計測する主要活動を記入。</p>	<p><b>③独自の価値提案：あなたの差別化要因と注目に値する価値を説明した単一で明確な説得力あるメッセージ</b></p> <p>あなたの活動が他に比べて注目、差別化できるポイントは何か。 明確で印象に残る説得力のあるメッセージを記入。 「正しい」かどうかは別に、思いつくものを書く。</p>	<p><b>⑨圧倒的な優位性：簡単にコピーや購入ができないもの</b></p> <p>他が簡単にコピーや購入が出来ないものは何か。 ※例：教育業界の第一人者が理事に在る。世論を動かす強烈なオピニオンリーダーがいる。</p> <p><b>⑤チャネル：顧客への経路</b></p> <p>顧客にどのようにサービスを届けるか。 認知度向上、評価を受ける・フィードバック、購入プロセス、サービスを届ける、フォロー・サポートのそれぞれの方法について、無料/有料ツールの活用を踏まえて記入。</p> <p>※無料ツールの例：メール、ブログ、小冊子、オンラインセミナー ※有料ツールの例：イベントの開催、インターネット広告</p>	<p><b>①顧客セグメント：ターゲットとなる顧客</b></p> <p>ターゲットにする顧客は誰か。サービスの受益者、商品購入者や、寄付者の属性、法人寄付、助成プログラムなどを記入。 また、アーリアダプターは誰かも明確化する。</p> <p>※注意：アーリアダプターはメインの顧客ではない。</p>
<p><b>⑦コスト構造：顧客獲得コスト/流通コスト/ホスティングコスト/人件費</b></p> <p>顧客に価値提供するために発生するコスト（「固定費」と「変動費」）は何か。</p> <p>アッシュ・マウリ+ (2012) 『実践リーンスタートアップ』オライリー・ジャパン。</p>		<p><b>⑥収益の流れ/社会的影響：収益モデル/顧客生涯価値/収益/粗利益</b></p> <p>事業継続のために収益の流れをつくる必要がある。顧客からどんな方法で金銭的成果、非金銭的成果を生み出すか。また、その成果により社会にどのような変化が起きるかを記入します。</p> <p>※金銭的成果例：寄付、助成金、販売売上、対価、定期会員化 ※非金銭的成果例：行動変容、ミッションの中間目標達成、支援者化、キャンペーンの広がり、メディア取材・報道</p>		



**「なぜ」 → 「どのように」 → 「何を」**

# リーンキャンバス発表の様子

作成したリーンキャンバスを踏まえ、参加者が順番に「誰の、どういう課題を解決するために、何を提供し、どういう価値を生み出すか」を発表した。

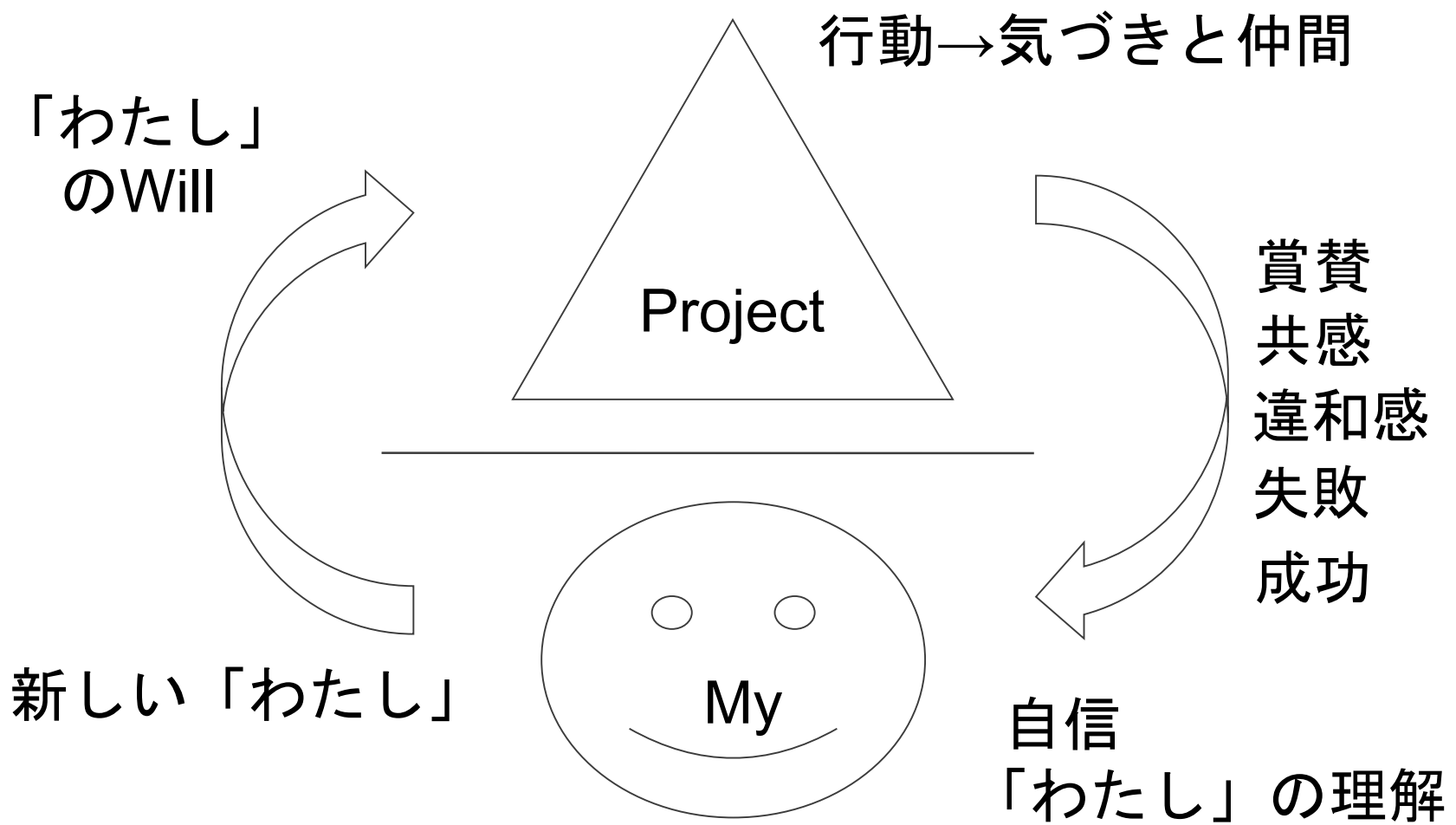


# チェックアウト

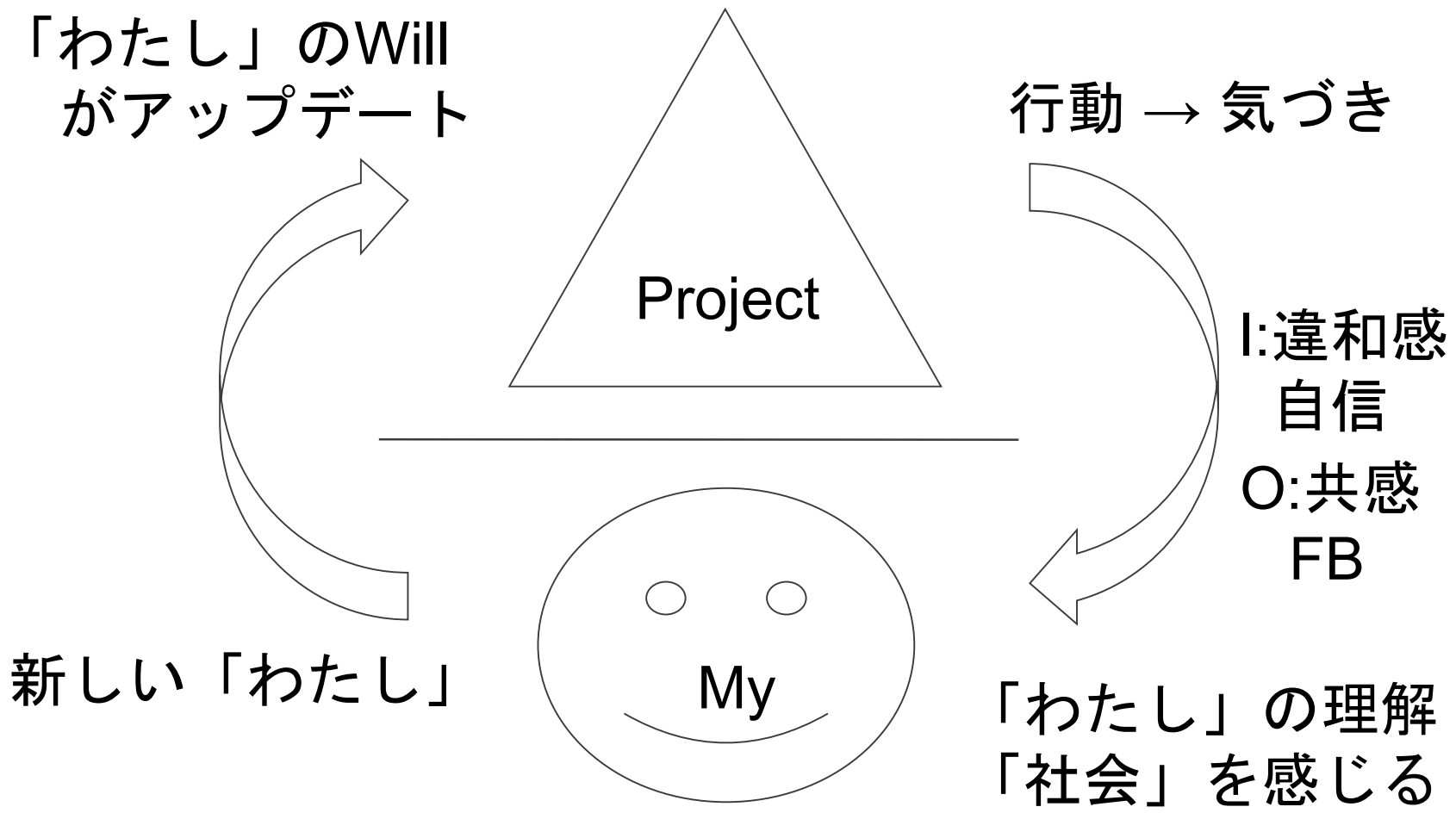
チェックアウトでは、ワークを終えて参加者1人1人が感じたことや考えたことを共有した。参加者は「まずカタチにして考えることの大切さを学べた。」など、今後のアクションにつなげていくヒントを得ていた。須藤氏より、自分がなぜそれをやりたいのか、再度考えてプロジェクトを進めるよう話しがあり、講座は終了した。



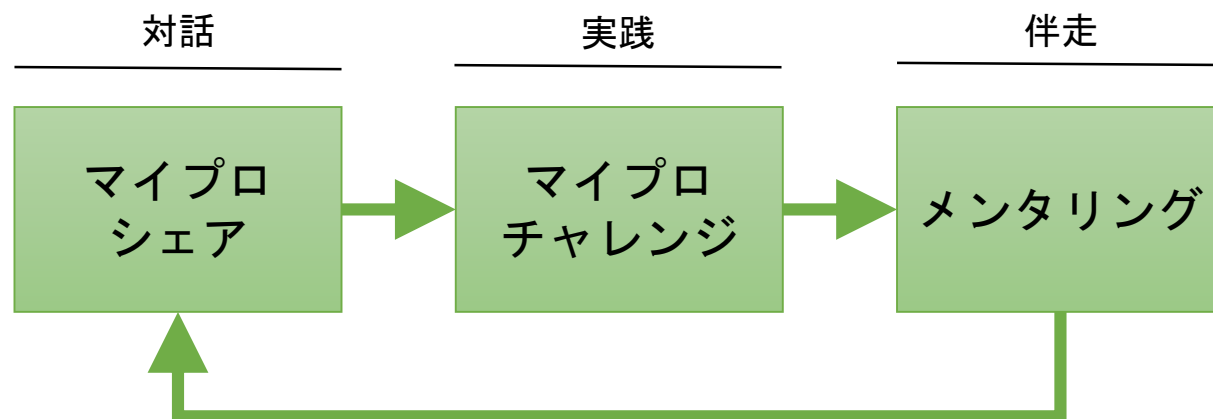




出所：ビジネス・ブレイクスルー大学 須子善彦氏作成資料より



出所：ビジネス・ブレークスルー大学 須子善彦氏作成資料より



- 四万十町地域イノベーター養成講座は、誰かが知識や方法論を教えるのではなく、受講生一人ひとりと大学生メンターと一緒にマイプロジェクトを進め、喜びや悩み、想いを共有しながら一歩ずつ前に進んでいくことを目指します。
- 対話を通じて一人ひとりのマイプロを共有し、一人ひとりが小さな実践を行い、それを受講生と大学生が相互にメンタリングを行いながら、「本当に自分がやりたいこと」に取り組んでいきます。
- こうしたプロセスを通じて「ジブンゴトをミンナゴト」にしていくための一人ひとりに法則を見つけ出していきます。
- 地域にイノベーションを起こすためには知識や方法論、メソッドはもちろん、本当に自分がやりたいこと、気になることを、仲間とともに小さな一歩を進めることから始まる、というのが私たちの基本的な考えとして講座を進めていきます。

四万十町役場 人材育成推進センター

担当：主査 横山 光一

〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号

TEL 088-022-3163 FAX 088-022-3123

E-mail [103060@town.shimanto.lg.jp](mailto:103060@town.shimanto.lg.jp)

高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

担当：講師 須藤 順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

TEL 088-788-8077 FAX 088-888-8043

E-mail [j.suto@kochi-u.ac.jp](mailto:j.suto@kochi-u.ac.jp)

Web <http://www.communitydesign-kochi.jp/>

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。